

a 学校教育目標		ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』		b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】(自校の使命) ・自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・主体的な学びが育まれる学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校		自己評価		改善方針		I 学校関係者評価		
評価計画						自己評価				改善方針		I 学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価			コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的・対話的・深い学びの創造	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びの実践 学習者用情報端末活用による積極的な授業改善 学力分析に基づく学力向上の取組(学び直しの場の設定、小中連携による授業改善) 共に学ぶ集団づくり 	①自己選択・自己決定の場を工夫した授業を1学期に1回以上行う。 ②校内検定テストの正答率 ③QUの結果をもとに、学級指導を行い、要支援児童の割合を減らす。 ④担当教科で学習者用端末を使い授業改善を行う。	①100% ②校内検定テストにおいて目標値85%以上達成した児童の割合を80%以上にする。 ③前期実施の該当数を後期に減少させる。 ④各学期1回以上	①授業実施率100% ②校内検定漢字84%(前年比-9%) 算数74%(前年比-14%) ③要支援児童(通常学級・特別支援、計9学級)4月…3人 ④100%	①授業実施率100% ②校内検定漢字85%(前年比+1%) 算数76%(前年比+2%) ③要支援児童0人(通常学級・特別支援、計9学級)4月…3人 ④100%	①100% ②101% ③100% ④100%	①A ②A ③A ④A	①全学級で自由進度学習を1回以上取り組むことができた。 ②国語科では目標を達成することができた。算数科では、あと少しで目標値85%を達成する児童の割合が多かった。授業改善を行うだけでなく、個に合わせた復習を継続的に取り組む必要がある。 ③4月より要支援児童が減った。こまめな対応や、積極的に生徒指導会議等での交流などを継続して行うことができた。 ④全学級で日々の学習や、自由進度学習などにICT端末を取り入れた学習を行うことができた。	①自由進度学習を通して、児童が主体的に学びに向かっているような手立てを継続して取り組んでいく。また、振り返りを通して教師は自身の授業を改善し、児童は新たな学びにつなげていけるように、校内研修等で共通理解を深めながら取り組んでいく必要がある。 ②家庭学習や個別の指導等で、計画的に学び直しを行わせることにより、校内検定の平均正答率を伸ばす。また、ドリルタイムなどを複数の教員で見ているように設定し、より個に対応できるようにしていく必要がある。 ③QUの分析結果や日頃からの情報を共有し、重点的に支援する児童を決め、月に1度の生徒指導委員会で取組を全教職員で交流していく。 ④今後も取組を継続し、学習者用情報端末を使った実践事例を交流し、授業改善を進めていく。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・学びに向かう児童の様子がよく分かった。自由進度学習をさらに進めてください。 ・授業改善のための校内研修を継続してください。 ・学習者用端末を活用した授業が定着し、児童のやる気の向上に役立っていると感じた。
			①児童一人一人の実態に応じた課題の工夫 ②学習チャレンジデーにおいて自己課題を明確にして自主学習を行わせる。	①100% ②100%	①93.2% ②74%	①91.8% ②82.8%	①91.8% ②82.8%	①B ②B	①学習チャレンジデーや自由進度学習を通して取組を進めたが、指標には届かなかった。しかし、課題設定の工夫に対して「意識がとてもできてい」と答えた児童は、10月時点より9%増えている。 ②自主学習を行う際に、自己の課題を明確にして取り組むことができた児童が8.8%増えた。しかし、前期と同様に課題を明確にできない児童が一定数いる。	①課題の設定が苦手な児童に対して、例を示す等で見通しをもたせたり、振り返りを交流させたりするなど、児童が選択できるような環境をつくることで習慣化していく。 ②授業等で課題づくりに取り組ませたり、検定テスト等に向けて目標を確認してから取り組ませたりすることで課題設定を習慣化していく。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がっていても継続できるような学習方法(習慣)を定着できるとよい。 ・自分で選び、課題を設定する力は重要であり、達成のためには家庭の協力も必要と思う。 ・家庭学習の充実のため保護者との連携を深めてください。
豊かな心	自己肯定感が高い心豊かな子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> SSRの活用、相談体制の充実、小中連携の充実 児童会による自治活動の充実 生徒指導の三機能を生かした指導生活上の基本の指導を徹底(時間挨拶 掃除) 	①不登校等児童生徒支援会議の計画的な実施 ②児童アンケートを全学年で実施する。 「自分から進んで挨拶をした。」 「よりよい学校、学級にしようががんばっている。」	①週1回以上 ②肯定的な回答90%以上	①100% ②「自分から進んで挨拶をした。」低学年92.9% 中・高学年86.0% 全校87.7% 「よりよい学校、学級にしようががんばっている。」 全校85.6%	①100% ②「自分から進んで挨拶をした。」全校80.3% 「よりよい学校、学級にしようががんばっている。」 全校90.2%	①100% ②80.3% 90.2%	①A ②B	①小中合同での不登校等児童生徒支援会議では、「小中施設一体型」の利便を活かし、小学校当時の様子などを交えた情報交換も実施できた。また、小学校のみの生徒指導委員会では、様々な活動を通して関わっていることから、「全職員で関わる」ことが実現できているため、会の中でも、多方面からの意見や気づきを交流することができた。 ②「自分から進んで挨拶をした。」については8割以上の児童が肯定的にとらえているが指標の90%には届かなかった。全校でも月の生活目標に取り入れるなどし、学級でも日々の取組を考え、取り組んでいるが、「自分から進んであいさつをする」という習慣づけには至っていない。また、「よりよい学校、学級にしようががんばっている。」については、指標をこえた。係活動や当番活動、委員会活動などの日々の活動が学校や学級をよりよくなる取組につながっていることを認識し、自らの頑張りに気づき始めているようであった。	①小中合同の会議では、「今後必要となる支援」を念頭に入れながら、子どもとの関わりを考え、小学校の会議では、児童の不登校や不適切な行動等の未然防止に向けて、意見交換をし、実践につなげていけるようにする。そのため、小中合同での不登校等支援会議及び小学校職員による生徒指導委員会の計画的な実施を進めていく。 ②「あいさつ」については、引き続き、月の生活目標に入れることで、意識づけを図っていく。また、バスの運転手さんやバス停で会う人々へのあいさつを登校班の反省会の点検項目に入れるなどして、あいさつの意識づけをさらに強化していく。「よりよい学校、学級にしよう」については、引き続き、掃除や委員会などの活動に職員も参加し、子どもたちの行動を称賛し、行動の価値づけを行うことで、学校や学級のために行動するよさを体験させるとともに、自分たちの行動の有効性を実感させるようにする。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・支援会議での取り組みに期待しています。 ・進んで挨拶をすることの自己評価が下がったことは高い意識や理想を子供たちが持っているからだと思った。
			<ul style="list-style-type: none"> 体験活動の充実(自然・文化・地域人材) 	①各学年、年1回	①6学年中5学年	①全学年	①全学年(100%)	①A	①1・2年は生活科の学習で、3・4・5年は総合的な学習の時間で、地域の人を講師に招いたり、地域の施設を訪問したりして学習を行った。 6年は、ICT機器を活用し、総合的な学習の時間に地域調べの学習を行った。	①各学年で、各教科等の年間計画に基づき地域を生かした学習を進めた。今後に向けて地域にどういった人材がおられるか記録を残しゲストティーチャーを活用していくとともに、フィールドワークなどの研修を実施することで、全職員が活用できるようにしていくことが望ましい。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・良い取り組みだと思います。継続してください。 ・地域教材の活用をさらに進めてください。
健やかな体	体力向上と健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 新体力づくりテストの分析に基づく体育科授業の工夫改善(全国平均以上を目指す。) 「金のルール」食育による生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食のバランス) 	①新体力テスト課題種目の克服を図る。(50m走) ②児童アンケートを全学年で実施する。	①走力の向上(50m走の記録を全国平均結果より、記録を伸ばした児童の割合)75% ②肯定的な回答90%以上	①全国平均以上の児童の割合は59.2%であったが、学年全体として男女ともに走力が全国平均を上回った。引き続き、体育に関する指導計画に沿って取り組む。 ②朝食を毎日摂る93.9%	①全国平均以上の割合は74%で前回を上回った。 ②朝食を毎日摂る97.0%	①50メートル走、98.7% ②朝食を毎日摂る100%	①B ②A	①週に1度のロング昼休憩を活用し、外遊びの時間をしっかりと、身体を動かすことを進めてきた。また、持久走に取り組む体力づくりを行ってきた。運動が苦手な児童には、引き続き児童会を中心に、いろいろな遊びや運動を紹介していく。 ②朝食を毎日摂る児童が97.0%、ほとんど朝食をとれていない児童が10月6.1%、1月3.0%である。就寝時刻が遅い児童が朝食を摂れていない傾向がみられた。食育については栄養教諭と連携を取り、各学年の発達段階に応じて栄養指導に取り組んでいる。また、高学年の家庭科は中学校の家庭科教諭が担当し、指導をしている。	①引き続き外遊びを奨励していく。また、3学期は全校で短縄跳びに取り組めるように、縄跳びカードを配布し、学級活動や体育の授業で実施する。 ②多くの児童が朝食を摂っていると答えている。しかし、朝食を十分に摂ることができていないと答えている児童もいる。朝食の大切さについて学級指導や、学級懇談会等の場を活用して児童の意識の向上を図るとともに保護者への啓発を行っていく。また、栄養教諭との連携や委員会活動の機会を生かして基本的な生活習慣の大切さについての意識の向上を図っていく。また課題のある児童については保護者との個別の連携をとり、課題の解決に向けた取組を進める。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・体力については個人差が大きいことを考えると十分な結果だと思ふ。 ・一生継続できる健康づくりが大切だと思います。 ・食育推進のための家庭連携を深めてください。
			<ul style="list-style-type: none"> 「食育」による生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食のバランス) 	①各学年、年1回	①6学年中5学年	①全学年	①全学年(100%)	①A	①1・2年は生活科の学習で、3・4・5年は総合的な学習の時間で、地域の人を講師に招いたり、地域の施設を訪問したりして学習を行った。 6年は、ICT機器を活用し、総合的な学習の時間に地域調べの学習を行った。	①各学年で、各教科等の年間計画に基づき地域を生かした学習を進めた。今後に向けて地域にどういった人材がおられるか記録を残しゲストティーチャーを活用していくとともに、フィールドワークなどの研修を実施することで、全職員が活用できるようにしていくことが望ましい。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・良い取り組みだと思います。継続してください。 ・地域教材の活用をさらに進めてください。
信頼される学校	開かれた学校づくりと教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 学校・学級・保健だより発行 連携教育だよりの発行(年4回以上) 園小中連携・研修の充実(不祥事ゼロ) 主任主事を中心とする組織的な学校運営 	①各たよりの発行(月1回以上) ②園小中の連携回数(年4回以上) ③計画的な研修の実施(月1回以上) ④小中合同の学校経営会議を開催(月1回)	①100% ②100% ③100% ④100%	①100% ②上半期2回実施 ③100% ④100%	①100% ②年間4回実施 ③100% ④100%	①100% ②100% ③100% ④100%	①A ②A ③A ④A	①年間を通して、各便りや、計画的に発行し情報発信を行うことができた。 ②年間を子ども園との連携を4回行った。 ③年間計画にそって研修を行うことができた。また必要に応じて臨時での研修研修を行った。 ④月1回の学校経営会議を計画に沿って行うことができた。	①次年度も行事の様子を知らせるなど、計画的な情報発信を行う。 ②年間を通して計画的に連携を行い、園小の連携を図る。 ③次年度も、計画的な実施、および必要に応じて見直しを行い含む研修の充実を図っていく。 ④学校経営会議の場から意見を取り入れるなどして、組織で小中の連携教育を進める。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・園小中連携をさらに継続してください。 ・学校だよりを楽しみにしています。引き続きよろしくお願いいたします。
			<ul style="list-style-type: none"> 「食育」による生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食のバランス) 	①各学年、年1回	①6学年中5学年	①全学年	①全学年(100%)	①A	①1・2年は生活科の学習で、3・4・5年は総合的な学習の時間で、地域の人を講師に招いたり、地域の施設を訪問したりして学習を行った。 6年は、ICT機器を活用し、総合的な学習の時間に地域調べの学習を行った。	①各学年で、各教科等の年間計画に基づき地域を生かした学習を進めた。今後に向けて地域にどういった人材がおられるか記録を残しゲストティーチャーを活用していくとともに、フィールドワークなどの研修を実施することで、全職員が活用できるようにしていくことが望ましい。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・良い取り組みだと思います。継続してください。 ・地域教材の活用をさらに進めてください。
働き方改革	教育の質の向上を図るための環境づくり教育の質の向上を図るための環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 上限目安時間の管理(45時間/月) 週1回の定時退校日の徹底 組織的・計画的な学校運営による効率化 	①月の時間外在校等時間を45時間以内	①100%	①86.3%	①90%	①90%	①B	①職員で声を掛け合い、上限時間を意識した業務を進めることができた。上限時間を過ぎる職員もいたが、学期末の業務の多くなる時には、成績処理週間の取組を行い、成績処理の業務にあてる時間を確保した。	①成績処理週間や授業時間数の見直し、衛生委員会などで出た職員の意見を生かすなど、日々の業務改善を行い、上限時間45時間を意識しながらやりがいをもって業務を進めることができるように組織的な取組を推進していく。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革と教育活動の充実が工夫が必要であると思ふます。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【:自己評価 評価】
A:100% (目標達成) B:80% (ほぼ達成) <100
C:60% (もう少し) <80 D:(できていない) <60

【I:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:評価がない。